

ニラ（周年）

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋 ～ 春 穫 り	1 年目	○ ～~~~~～ ◎ ———— × ———— # ◇											
	2 年目	↑ # ◇											
夏 穫 り	1 年目	○ ～~~~~～ ◎ ————											
	2 年目	# ↑											
主な作業		○播種 ~~~育苗 ◎定植 ———株養成 #ビニール被覆 ×刈り捨て ◇保温開始 ↑ビニール除去											

ニラ ユリ科、原産地：中国西部

作物名 ニラ

学 名 *Allium tuberosum* Rottler.

作型 周年

技 術 体 系

1 作型の特徴

高品質の「ニラ」を連続的に出荷するには、充分な株養成が必要である。秋～春穫りと夏穫りの圃場を組み合わせ、周年出荷を行う。

2 適応地域

全域

3 栽培条件

(1) 温度

発芽適温は 20℃前後である。地温が 10℃以下及び 25℃以上では、著しく発芽率が低下する。

比較的冷涼な気候を好む。生育適温（地温）は 18～23℃である。5℃以下及び 28℃以上では肥料吸収が低下し、生育が悪くなる。

(2) 土壌水分

根は土壌中の酸素を強く要求し、過湿条件を極度に嫌う。乾燥には強いが、育苗及び株養成期間中は適度な水分が必要である。

(3) 吸肥力

吸肥力は弱い。吸肥力の強い時期（4～5月、

9～10月）に、少量ずつ回数を多く施用する。

(4) 休眠

秋から冬の短日条件（日長 14 時間以下）により休眠に入る。休眠程度には品種間差がある。

(5) 花芽分化・抽だい

花芽分化は長日条件とその時の苗齢（苗の大きさ）によって決定される。分化時期は 5～6 月、抽だい・開花は 6～8 月頃である。

春まき栽培では、初年度はほとんど抽だいしない。

(6) 土壌条件

酸性土壌を嫌うので作付け前に石灰資材を投入し、pH 6.5 を目標に矯正する。

4 施設装備

(1) ビニルハウス

(2) 内張りカーテン

(3) 灌水施設

5 経営目標

(1) 収量 5.0 t/10a

(2) 投下労働時間 800 時間/10a

(3) 所得率 60%

(4) 経営規模 20a

（家族労働力 2 人の場合）

栽培技術

1 品種と特性

「ワンダーグリーンベルト」

葉幅広く、揃いもきわめて良好。葉鞘部は長く、草姿が立性で収穫調整が容易である。休眠は無く、低温伸長性が強いので、冬期のハウス栽培に適する。

「スーパーグリーンベルト」

葉幅広く、揃いもきわめて良好、A品率が高い。休眠は無く、周年栽培に適する。

ワンダーグリーンベルトと比較すると、分けつは多いが、無効分けつは少なく収量性は高い。また、低温伸長性がやや弱いので、高温管理が必要である。

2 育苗準備

(1) 育苗床の選定

育苗床は 10 a 当り 2 a 必要である。肥沃で排水の良い所を選ぶ。

(2) 土壌消毒

病害虫予防のため、本圃土壌消毒に準じて処理する。

(3) 施肥・育苗床作り

育苗床はベット幅 100 ～ 120cm、通路 45cm として、排水をよくするために上げ床とする。表面をならし、軽く鎮圧する。

育苗床施肥量 (kg / 1 a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備 考
基肥	1.5	5.5	1.5	完熟堆肥 300kg

3 播種

(1) 播種量

ワンダーグリーンベルト 1.0 ㍓ / 10a

スーパーグリーンベルト 0.6 ㍓ / 10a

(2) 種子予措

種子は 24 時間水に浸した後、陰干し（または、ストッキングに入れ洗濯機の脱水機を利用して乾燥）して、薄く播く。

(3) 播種

12 ～ 15cm の条播を行う。覆土は種子が隠れる程度（5 ～ 6 mm）とする。

(4) 敷ワラ・トンネル被覆

播種後ただちに敷ワラ又はもみがら、くんたんを薄く敷き、充分灌水する。その上に黒寒冷紗（細目）

をベタがけし、トンネルを被覆して発芽を待つ。

ニラの種子は嫌光性の為、発芽までは光の進入を防ぐ。適温 18 ～ 23 ℃で 10 ～ 12 日で発芽する。

発芽そろいと同時に敷ワラ、黒寒冷紗を除去する。

発芽後は乾燥しやすいので、灌水し、常に水分を保持する。

4 育苗管理

(1) 追肥

生育状況を見ながら液肥等を施用する。

(2) 温度管理

トンネル内の温度は 30 ℃を超えないように管理し、徒長苗にならないように注意する。

(3) 病害虫防除

軟腐病、白斑葉枯病、スリップス、ネギコガ等の発生に注意し、農薬は予防散布に努める。

(4) 間引き

混み合ったところは間引きする。

5 本圃土壌消毒

(1) 土壌くん蒸剤処理

耕起後、適湿の状態で、クロルピクリンを処理する。処理後は速やかにビニルまたはポリで土壌表面を覆い、ガス漏れしないように土で押さえる。

処理後 10 ～ 14 日目に覆いを除去し、2 ～ 3 回耕起して十分ガス抜きする。

(2) 太陽熱処理

粗大有機物を 10 a あたり 4 t 施用し、耕起する。充分灌水し、ビニルで全面被覆して 20 ～ 30 日間ハウスを密閉する。6 ～ 7 月の高温期に処理すると効果が高い。

6 定植準備

(1) 有機質施用

完熟堆肥を 10 a 当り 5 t 以上施用し、深耕する。

(2) 酸度矯正

酸性土壌を極度に嫌うため、石灰資材を施用し、pH6.5 を目標に矯正する。（定植 30 日前まで）

(3) 基肥施用

定植 20 日前までに基肥を施用する。

本圃施肥量 (kg / 10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備 考
基肥	25	35	25	完熟堆肥 5,000kg
追肥	20	20	20	5 ～ 6 回に分けて
合計	45	55	45	

(4) 畦立て

間口 5 m ハウスの場合、畦幅 215cm、通路 30cm、高さ 20cm（排水の悪い圃場は 30cm）の畦を作る。

7 定植

(1) 栽植距離

株間 30cm × 条間 30cm、6 条植えとする。

(2) 植えつけ本数

ワンダーグリーンベルト：5～6 本/株

スーパーグリーンベルト：2～3 本/株

(3) 植えつけ

分けつした時に株が浮き上がらないように、10cm の深さに植えつける。（浅植えにならないよう注意）

8 株養成時の管理

定植（収穫終了時）から 120 日（約 4 ヶ月）間は、株養成を行う。この時期の管理が収量に最も影響を及ぼすので、台風被害や徒長による倒伏、病害虫の被害を受けても刈り捨てたりせず、株養成を続けることが重要である。

にらの生育適温（地温）は 18～23℃であり、夏場の高温時期には、貯蔵養分の蓄積のために以下の点に注意する。

(1) 通風、採光がいつも株元まで及ぶこと。

(2) 敷きワラ等を行い、地温を下げる工夫をする。

(3) 花茎は 8 月中旬より伸長を始めるので、開花させないように早期に刈り取る。

(4) 夏場は繁茂するので、倒伏防止（倒伏の危険性のある圃場はネットを張り予防する）に努める。

(5) 遮光資材（寒冷紗等）を利用し、葉焼け、硬化を防ぐ

(6) 病害虫（白絹病、さび病、ネダニ、スリップス、アブラムシ等）が多発するので、防除を徹底する。

9 収穫準備

(1) ビニル被覆

刈りすて前にビニール被覆を行う。（夏ニラは雨よけ栽培とする）

(2) 刈りすて

株養成期間（120 日）が過ぎたら株元から刈り取りすてる。冬場は 35～40 日、夏場は 20 日程度で収穫可能となる。作業労力を分散させるため、刈り取りは 3～4 日分ずつ計画的に順次行う。

(3) 追肥

生育促進のために追肥を行う。

(4) 温度管理

ハウス内の気温は日中 25～30℃で管理し、蒸しこみや急激な換気は行わない。夜間は 5℃以下にならないように保温する。厳寒期には二重張りまたはトンネルも活用し、保温を行う。

10 収穫

出荷規格に合わせて刈り遅れないように収穫する。良く切れる鎌で土をつけないように刈り取る。

ニラの品温が上昇してから収穫すると品質の低下が早いので、日中の収穫は行わない。

1.1 収穫後の管理

(1) 追肥

刈り取り後、追肥を行う。一度に多量に施用するとガス障害が発生することがあるので 2～3 回に分けて施用し、十分灌水する。

(2) 灌水

刈り取り後、生育前半に 2～3 回十分灌水する。生育後半の灌水は、病害虫の多発や品質低下の原因となるので、行わない。

(3) 病害虫防除

収穫期間に多発するものは、白斑葉枯病、乾腐病、ネダニ、スリップス、アブラムシ等がある。

刈り取り直後や新葉があまり伸びないうちに予防散布に努める。